

令和の日本型学校教育

文部科学省初等中等教育局
初等中等教育企画課
教育制度改革室長

白井 俊

現在の学校を取り巻く環境

新学習指導要領：「アクティブ・ラーニング」を推進

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。



主体的な学び
対話的な学び
深い学び



【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。



学びを人生や社会に
生かそうとする
**学びに向かう力・
人間性等の涵養**

生きて働く
**知識・技能の
習得**

未知の状況にも
対応できる
**思考力・判断力・表現力
等の育成**



教科の本質＋実社会・実生活との関連性

令和3年度 大学入学共通テスト(数学ⅠA)

数学Ⅰ・数学A

第2問 (必答問題) (配点 30)

- 〔1〕 陸上競技の短距離100 m走では、100 mを走るのにかかる時間(以下、タイムと呼ぶ)は、1歩あたりの進む距離(以下、ストライドと呼ぶ)と1秒あたりの歩数(以下、ピッチと呼ぶ)に関係がある。ストライドとピッチはそれぞれ以下の式で与えられる。



$$\text{ストライド(m/歩)} = \frac{100(\text{m})}{100 \text{ mを走るのにかった歩数(歩)}}$$

$$\text{ピッチ(歩/秒)} = \frac{100 \text{ mを走るのにかった歩数(歩)}}{\text{タイム(秒)}}$$

ただし、100 mを走るのにかった歩数は、最後の1歩がゴールラインをまたぐこともあるので、小数で表される。以下、単位は必要のない限り省略する。

例えば、タイムが10.81で、そのときの歩数が48.5であったとき、ストライドは $\frac{100}{48.5}$ より約2.06、ピッチは $\frac{48.5}{10.81}$ より約4.49である。

平成30年度 試行調査(数学Ⅰ)

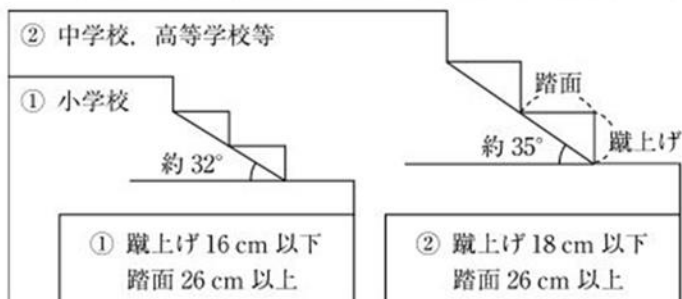
- 〔3〕 久しぶりに小学校に行くと、階段の一段一段の高さが低く感じられることがある。これは、小学校と高等学校とでは階段の基準が異なるからである。学校の階段の基準は、下のように建築基準法によって定められている。



高等学校の階段では、^{ふかづら}蹴上げが18 cm以下、^{ふみづら}踏面が26 cm以上となっており、この基準では、傾斜は最大で約35°である。

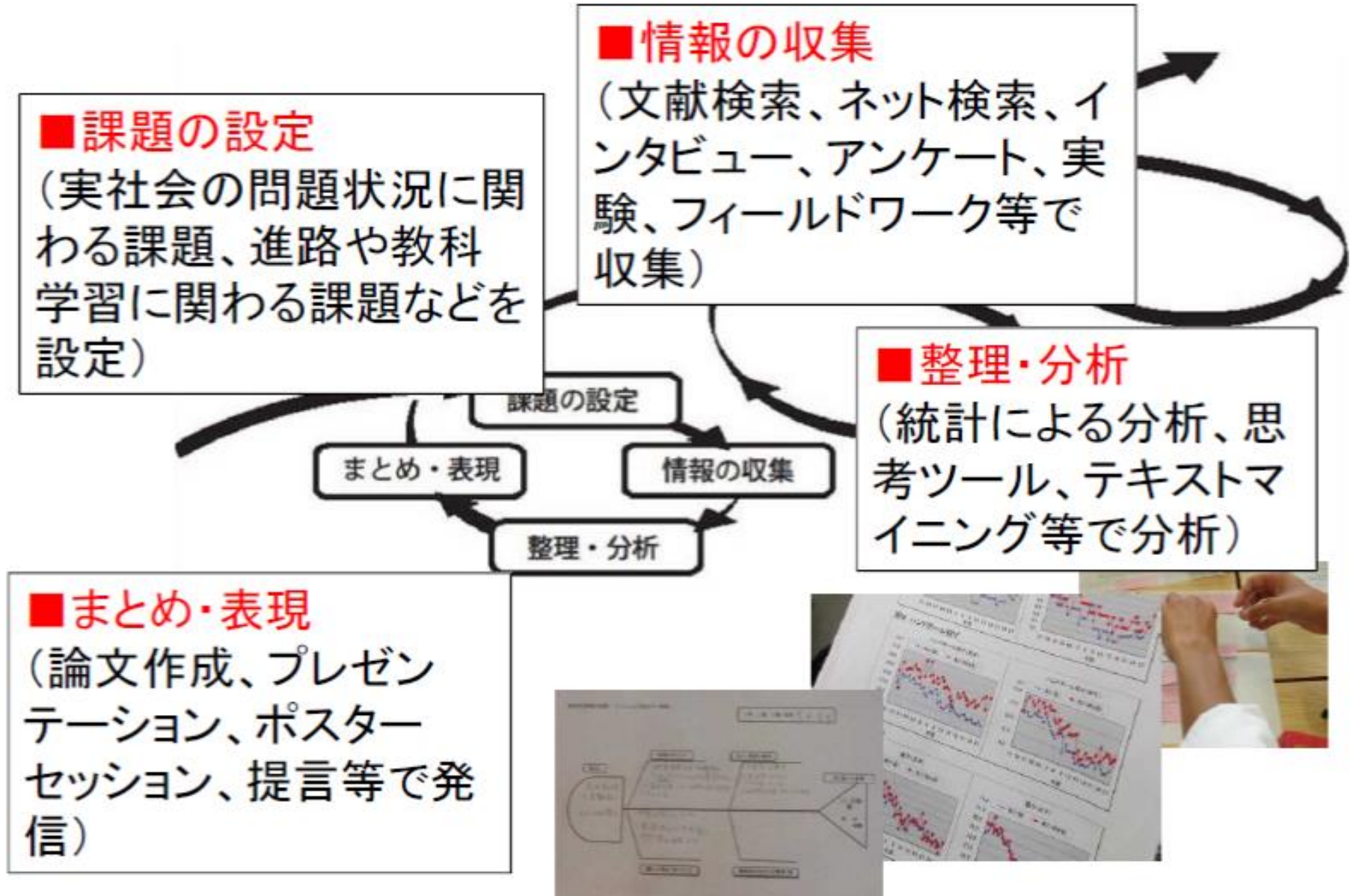
【建築基準法による階段の基準】

*下の図は、階段の傾斜が基準内で最大のときを表している。



階段の傾斜をちょうど33°とすると、蹴上げを18 cm以下にするためには、踏面をどのような範囲に設定すればよいか。踏面を x cmとして、 x のとり得る値の範囲を求めるための不等式を、33°の三角比と x を用いて表せ。解答は、解答欄 に記述せよ。ただし、踏面と蹴上げの長さはそ

様々な課題を教科横断的に「探究」する



どうやって考えるか：考えるための技法（思考スキル）

○順序付ける

- ・複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。

○比較する

- ・複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。

○分類する

- ・複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。

○関連付ける

- ・複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。
- ・ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。

○多面的に見る・多角的に見る

- ・対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。

○理由付ける(原因や根拠を見付ける)

- ・対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。

○見通す(結果を予想する)

- ・見通しを立てる。物事の結果を予想する。

○具体化する(個別化する, 分解する)

- ・対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。

○抽象化する(一般化する, 統合する)

- ・対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。

○構造化する

- ・考えを構造的(網構造・層構造など)に整理する。

実際に取り組まれている探究テーマの例

課題研究テーマ	
コーンが出てこーん！～コーンスープの流体力学～	物理
アリはでたらめに動いているのか	物理
目にゴミが入りにくい最適なまつ毛とは	物理
卵白の起泡力及び安定性に対する諸条件の影響	化学
シールの最適剥離方法	化学
ドローンによる効率的な被災者の探索のシミュレーション	数学
多項式関数として定義される加法・乗法	数学
最適なクモの巣の形とは？—獲物の捕獲率に関する数学的な考察—	数学
様々な条件下での酵母の活動	家庭
発酵～湯だね製法によるパン作り～	家庭

出典：広島大学附属中・高等学校ホームページ https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori/superscience4/title

デジタル化で変わる学びの風景

個々の子供に応じたよりきめ細やかな指導



個々の子供の状況を
客観的・継続的に把握
(センシング技術)



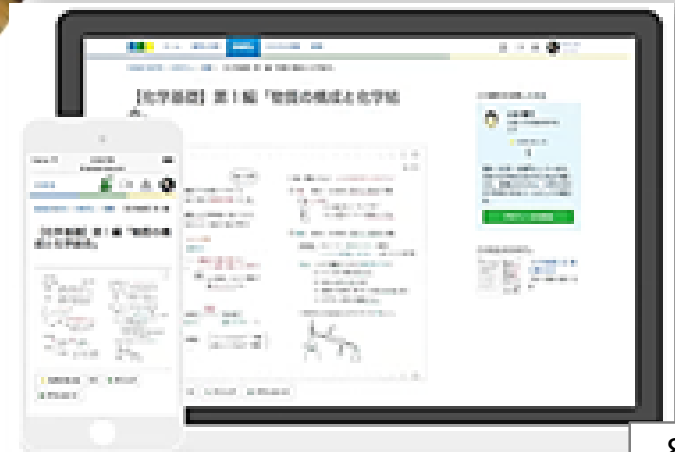
意見・回答の
即時共有を通じた
効果的な協働学習



知識・技能の定着を助けるA Iドリル



学習記録データに基づいた、
効果的な問題や興味のありそ
うな学習分野等のレコメンド



小学校でも教科担任制が広がる

	国語 (書 写を 除く)	書写	社会	算数	生活	理科	音楽	図画 工作	家庭	体育	外国語 活動
第1学年	1.1%	6.6%		1.5%	0.8%		12.2%	4.3%		6.1%	
第2学年	2.3%	13.5%		2.5%	1.6%		20.7%	9.8%		7.4%	
第3学年	2.4%	26.8%	6.0%	5.1%		21.6%	40.6%	16.8%		7.7%	11.3%
第4学年	2.5%	29.7%	7.4%	5.9%		32.3%	47.8%	20.4%		8.4%	12.0%
第5学年	3.4%	26.6%	14.5%	7.3%		45.1%	54.0%	20.4%	33.9%	9.9%	18.3%
第6学年	3.5%	26.8%	15.5%	7.2%		47.8%	55.6%	21.0%	35.7%	10.5%	19.3%

*1 ここでの教科等の担任とは、「学級担任以外で、教科等(複数教科を担当することを含む)を主指導する教師」のことである。

*2 ここには、以下の様な多様な形態のものを含む(複数の教師が協力して行う指導(TT)で実施する場合も含む。)。

・教員の得意分野を生かして実施するもの。

(例)あるクラスの担任を持ちながら、得意分野である理科については他のクラスの授業も受け持つ場合。

・中学校・高等学校の教員が兼務して実施するもの。

(例)地域の中学校の外国語の教員が、第6学年の外国語の時間のみの当該小学校において外国語活動の授業を行う場合。

・非常勤講師が実施するもの。

(例)音楽の専科教員が、市内の複数の学校を受け持ち、当該小学校の音楽の時間のみの授業を行う場合。

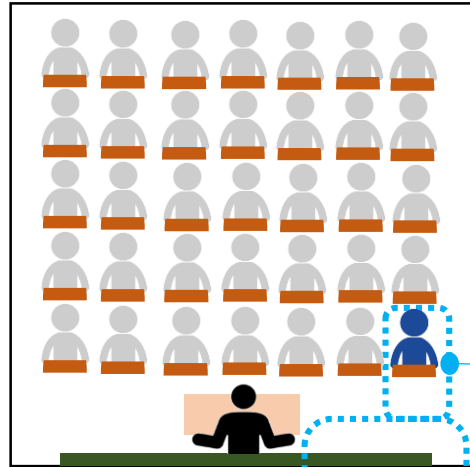
*3 各教科等の一部の領域についてのみ教科等担任制を実施している場合も含む。

*4 年度途中から教科等担任制を導入する場合も含む。ただし、担任以外の教師による指導が継続的でない(単発で担任以外の教師が指導する等)場合は含まない。

(出典:平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査)

「日本語」ができる子どもばかりではない

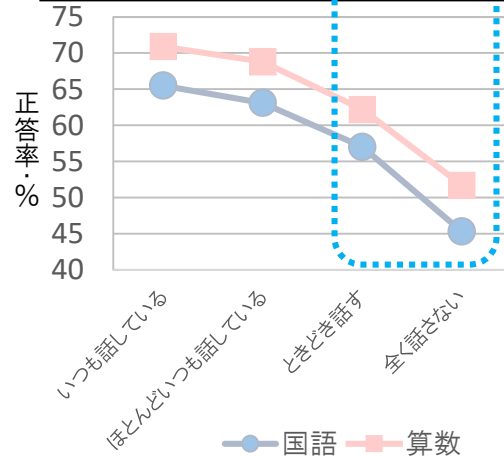
小学校 35人学級 



家で日本語を
「全く話さない」
「ときどき話す」
と答えた割合
(1クラスあたりのイメージ)

小学校
1.0人
(2.9%)

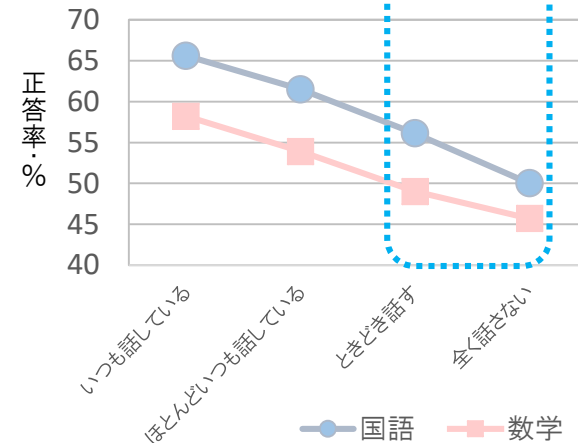
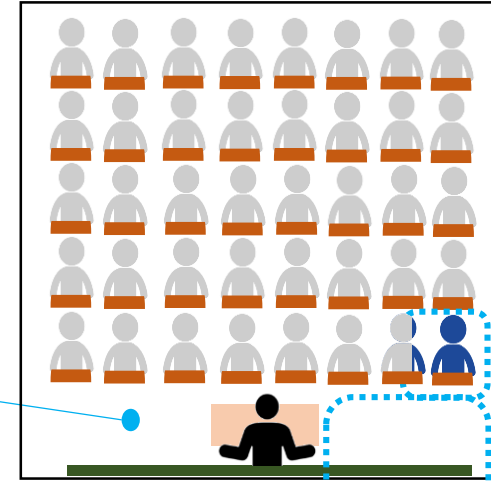
中学校
1.3人
(3.2%)



家で日本語を話す頻度と
学力・学習状況調査の
正答率の関係

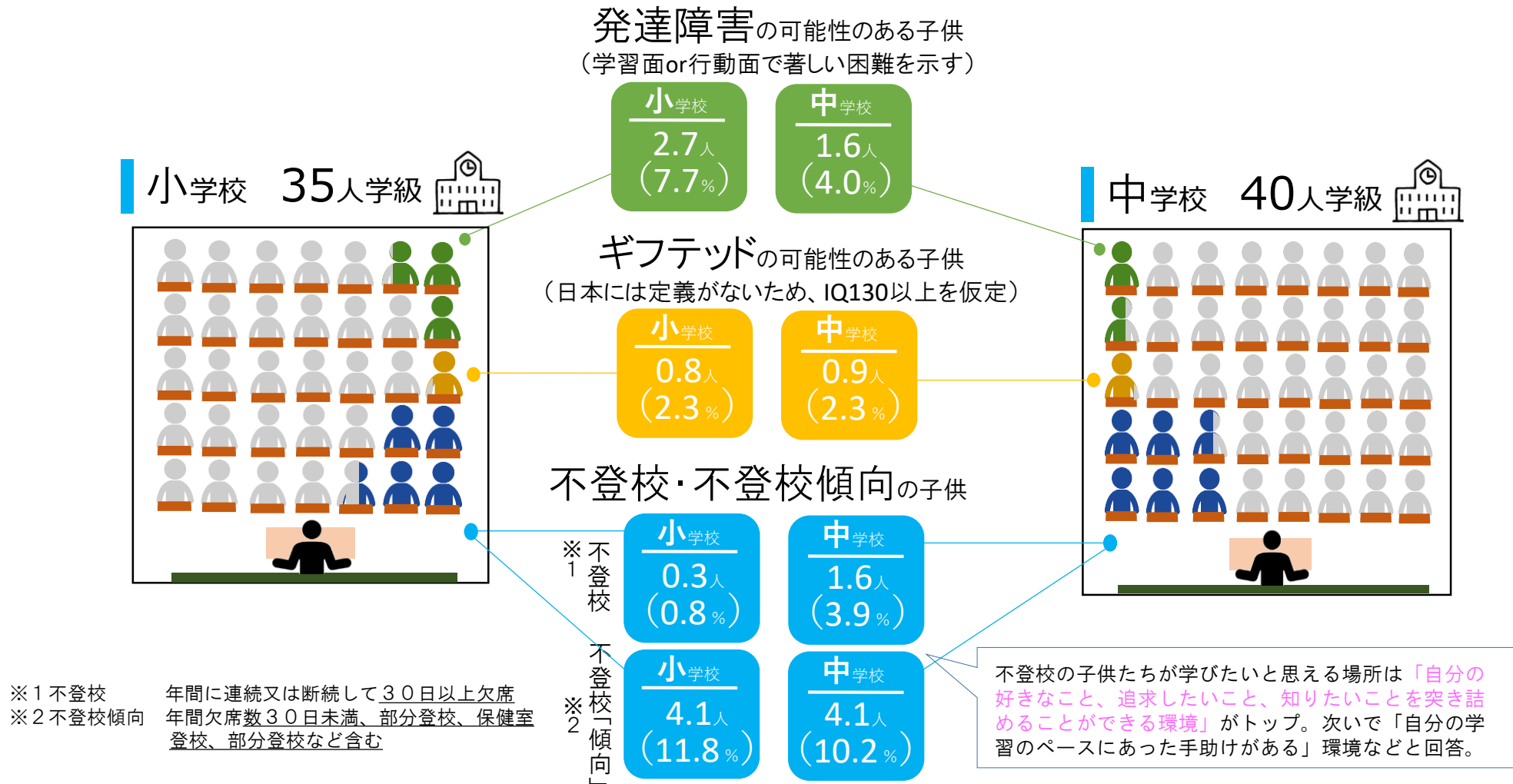
家で日本語を
話さない子供ほど、
正答率が低い

中学校 40人学級 



【出典】令和3年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙、生徒質問紙結果より内閣府において作成。全国平均値等を1クラスに仮に見立てた場合のイメージ図。実際には偏在等は生じている可能性が有る旨留意。
児童生徒質問内容：あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか。

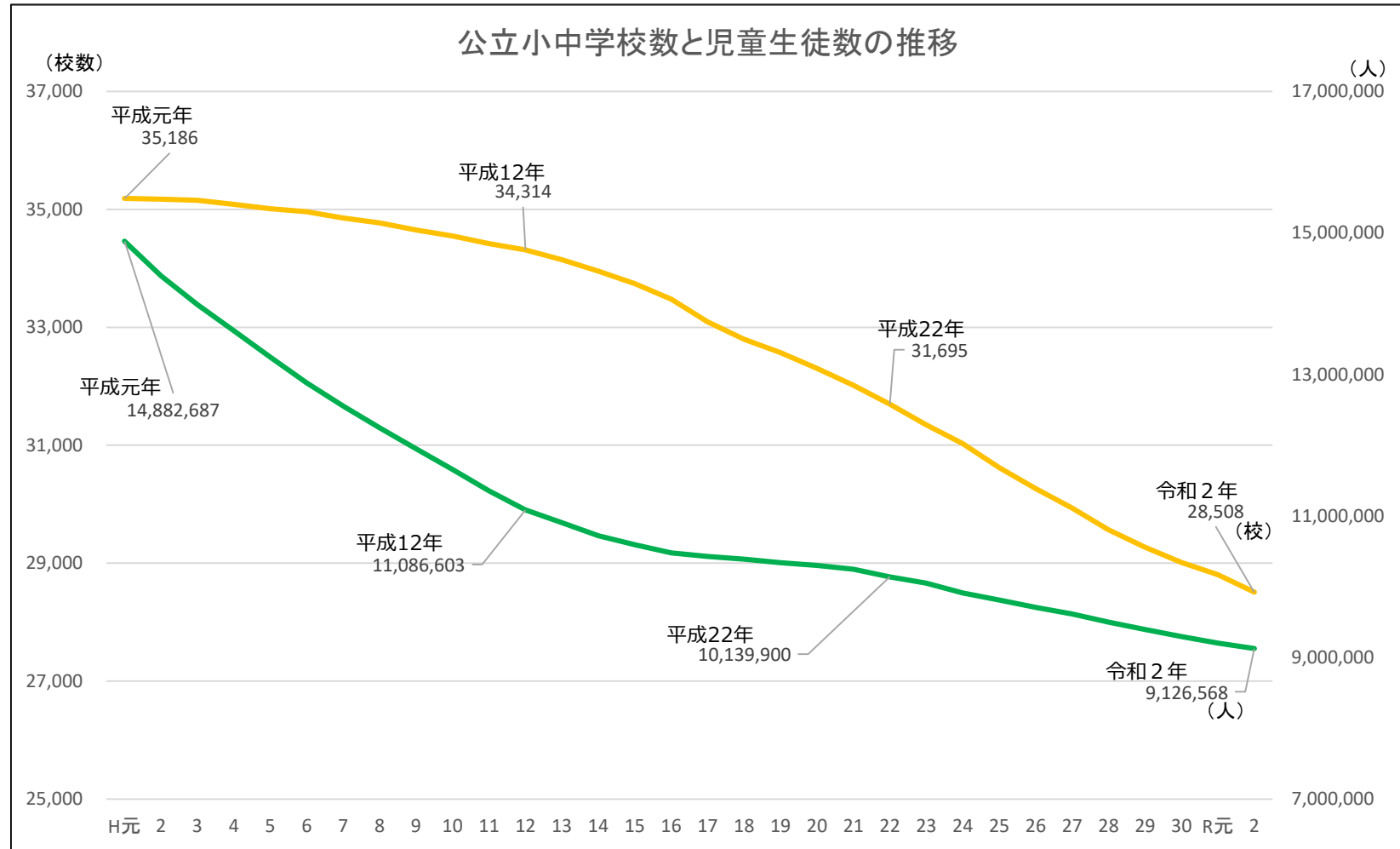
様々な特性を持つ子ども達の姿



【出典】通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果 平成24年12月 (文部科学省)

※1 令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)、 ※2 不登校傾向にある子どもの実態調査(日本財団)

少子化の進展と新しい学校モデルの模索



出典: 文部科学省 学校基本調査

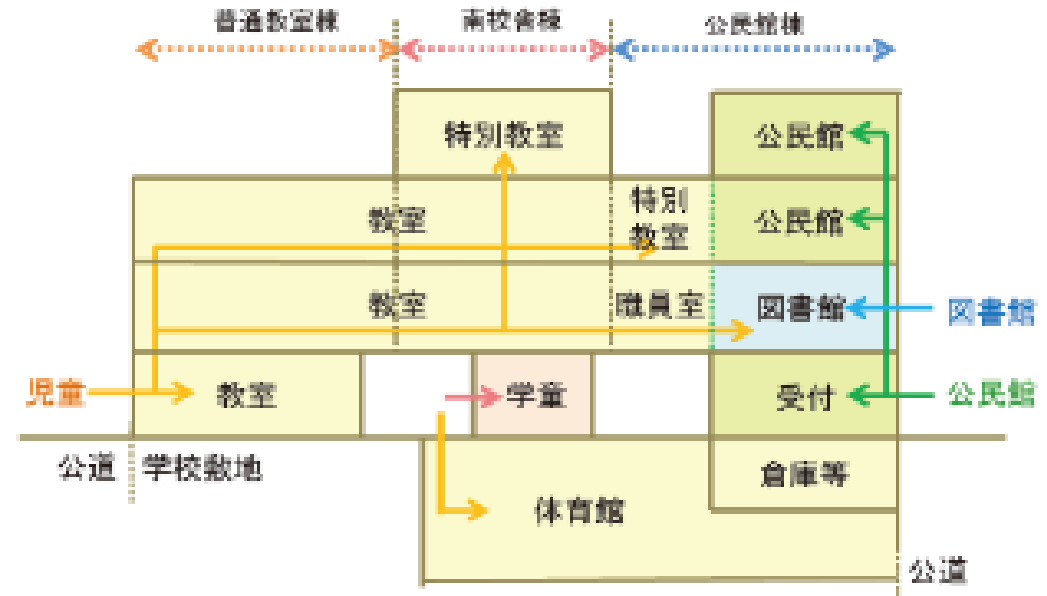
※中学校の約4分の1で、複数校合同部による活動が行われている。

出典: スポーツ庁 平成29年度運動部活動等に関する実態調査報告書

学校の施設も変わる



普通教室棟と生涯学習棟をつなぐ2階テラスとブリッジ



施設整備の背景

- * 志木小学校と、近接する公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題の解決策として、学社融合施設とする案が浮上。
- * 地域に開かれた学校として、児童と地域の人々が直接交流の機会をもつことで、学習の相乗効果が現れることを期待した。
- * 既存校舎のうち、北・西校舎は取り壊し、南校舎は耐震補強を残すこととした。

- 学校規模／ 22 学級 677 名
(特別支援学級 2 学級 7 名)

- 複合施設 (床面積) ／
小学校 (10,489㎡)
公民館 (1,704㎡)
図書館 (1,034㎡)

- 整備時期／平成 15 年
- 構造／ SRC 造地下 2 階地上 4 階



児童による貸出し業務体験もできるなど、複合した公共図書館を利用する児童が多い



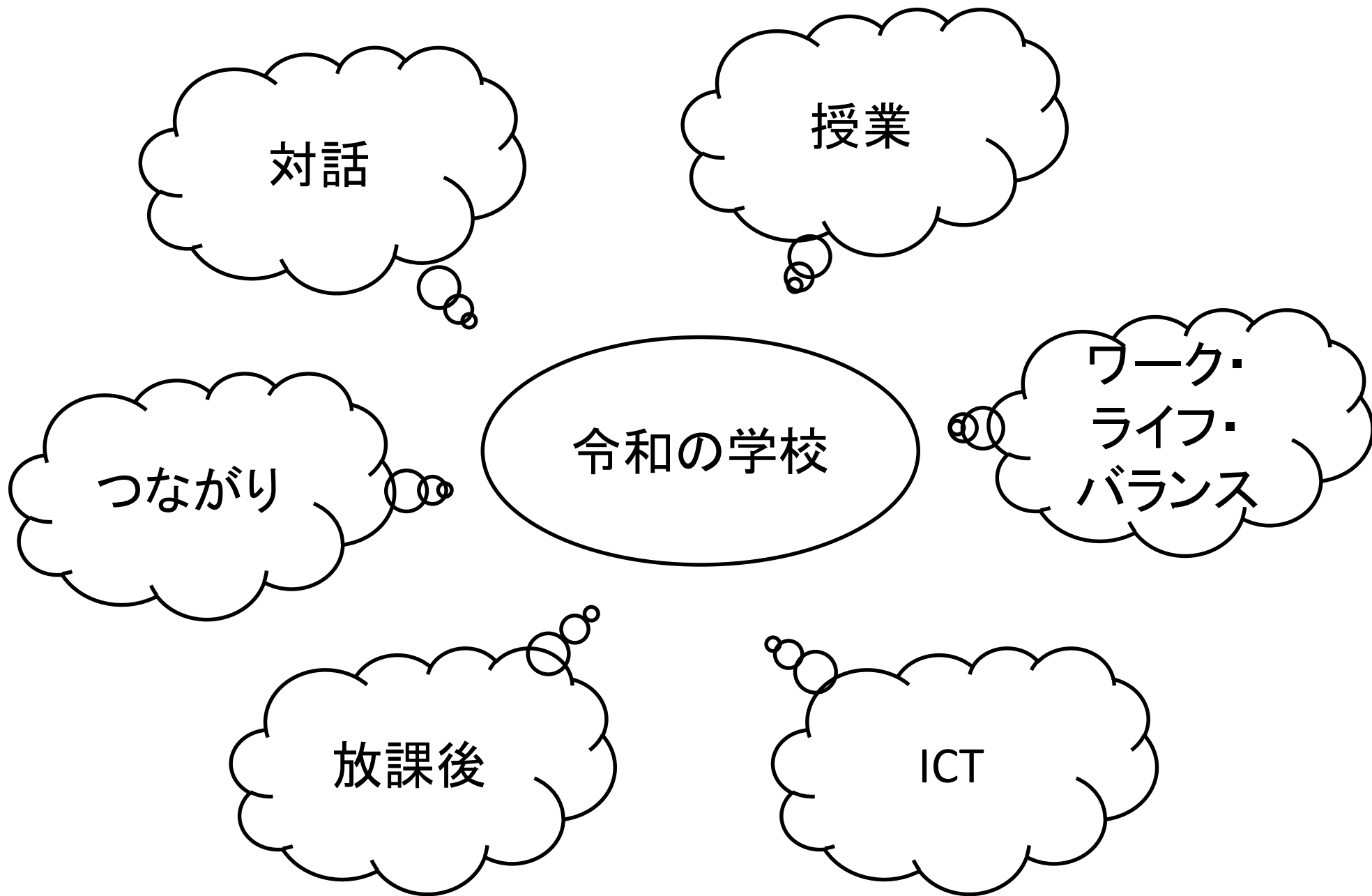
校内のチャレンジコーナーには専門職員が厳選した図書が並ぶ

「変わること」「変わらないこと」

日本の学校教育はこれまで、学習機会と学力を保障するという役割(①)のみならず、全人的な発達・成長を保障する役割(②)や、人と安全・安心につながることができる居場所としての福祉的な役割(③)も担ってきた。この役割の重要性は今後も変わることはない。

(中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)p2より)

※文中の(①～③)については別途追記している。



より良い「令和の学校」を作るためには、
教育に関係する私たち一人一人の
役割が大切